

## 『ジャイアンツカップ』の

全日本中学野球選手権



充実した投手陣。梶原監督の信頼は厚い（左から  
粉山、野口、松村、藤原）

投手力と機動力を前面に全国大会へGO！

ボーイズリーグ所属  
横浜市青葉区

横浜青葉ボーイズ



9月の厚木大会で強豪・都筑中央に勝利。自信を付けた横浜青葉ボーイズ

**1** 982年創部と長い歴史を持つ横浜青葉ボーイズだが、代表決定戦で涙を飲むこと2回。いまだ全国大会出場は果たせていない。全国切符の獲得とジャイアンツカップ出場は創部以来の悲願だ。

「言葉は悪いが、死ぬほど練習しなくては（激戦区）神奈川のトップには立てない」と話す梶原政与監督（48）の厳しくも愛ある指導が、徐々に実を結びつつある。9月に行われた厚木大会3回戦では強豪・都筑中央を撃破。自信をつけたナインに、梶原監督も「飛び抜けた選手はいないが、去年（の代）よりチーム力はアップしている」と成長を感じている。

投手陣は右5枚。エース格・吉村大晴はスリークォーターからスライダーとシュートを投げ分け、制球力の高い粉山哲哉は縦のカーブが武器。本来、遊撃を守る藤原雄斗はスライダーとスピン

のかかった威力ある直球で抑え役を担う。緩急が使える野口皓貴は前出の都筑中央戦で4回1失点の好投を見せ、勝利の立役者となった。松村青は投手陣唯一の1年生ながら力のある直球を持ち、戦力に名を連ねる。藤原、鈴木颯真の俊足1、2番コンビはチームの目指す「機動力野球」を体現。広角に打てる杉岡壮将、パワーと粘り強さを備えた強肩捕手の山口海翔、ミート力の高い吉村のクリーンアップで得点を奪う。打力のある齊藤雅樹、守備範囲の広い久富雅之は期待の星だ。

杉岡主将は「チームバッティングを心掛け、ノーヒットでも点を取ることを目標にしている。強豪に勝たないと全国、G杯への道は開けない」と意気込み、木之内裕太副主将は「どんな相手でも自分たちのプレースタイルを崩さずに戦いたい」と未知なる舞台への思いを強くした。